くさばな しんぶん

2021年２月号

2021（令和3）年
２月１日発行
通算第297号

《小学校の学級定員が改善されることに》

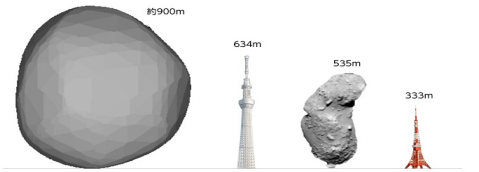
「コロナ」で日本中が萎縮する中で、昨年末に嬉しいニュースがありました。残念ながら幼稚園や保育園に関してではありませんが、園児の誰もがいずれ進学する小学校の学級定員のことです。

小学校の学級定員を今の 40 人から減らして欲しい、というのは教育界の悲願とでもいうべきものでした。しかしそれを阻むのは財務省。その言い分は「学級定員を下げたら学力が上がるという証拠はあるのか」。全国でそれを実施したら教員の必要人数が大幅に増えることにより財政負担が増える、それに見合う効果があるのか、という言い分です。しかし文科省は、コロナ対策で教員が授業前後の通常の業務のほかに、教室の消毒などの作業負担が加わり、ただでさえ多忙な教員が疲弊している、と訴えたようです。今回、定員は 35 人に引き下げることで合意に至りました（文科省はもともとは 30 人を求めていたようです）。実は数年前から小学校１年生についてだけは 35 人学級となっていましたが、学校現場からは２年生に進級すると、とたんに 40 人で学級編成をし直すことになり、そのギャップが問題となっていました。今回の両省の合意で来年度以降、順次 35 人学級が段階的に実現することになりました。

さて、それでは幼稚園や保育園の世界はどうなのでしょう。私は小学校の全学年が 35 人になることによって、その波及効果が幼児の世界に及ぶことを期待しています。現在、幼稚園（認定こども園のみ）と保育園の正規教員・保育士の配置基準は４歳以上は 30 人に１人（通常の幼稚園は 35 人に１人）、３歳は 20 人に１人とされています。でもそれでは実際には無理です。そのため各園はいろいろやりくりしながら補助の保育者を配置して日々の保育をしているのが現状なのです。これがたとえば４歳以上は 25 人に１人という基準に改正され、それに見合う運営費が保証されれば、と強く願っています。

《宇宙への夢》

冬は夜空が美しく広がります。星座がきらめいています。宇宙には果てがない、とか、あそこに光っている星までは何万光年の距離があるとか、とかくスケールが違いすぎて実感が湧きません。しかし天空に広がる星の世界は日常の世界から離れて心を和ませる力があります。



さて、日本の「はやぶさ２」が 12 月に地球におみやげを持って帰って来ました。前回の「はやぶさ」のようなドラマ性はありませんでしたが、科学者というものは凄いなぁと感じました。科学に基づく構想力とでは、決断力と組織力が大きな支えだったことが分かります（「文藝春秋 ２ 月号」）。図は左が今回到達した「リュウグウ」、右が前回の「イトカワ」で、それぞれスカイツリーと東京タワーと比較したものです。この快挙をきっかけに科学の道に進みたいと願う子どもたちがたくさん出てくると嬉しいですね。幼稚園では各保育室に天体カレンダーを数年前から飾っています。日常的に宇宙の世界を目にしてほしい、という願いからです。

理事長　山城 清邦

《３学期が始まりました》

今年度のまとめの月となる３学期が始まりました。冬休み中は、大きなけがや病気の報告も園には入ってこなかったので、どちらのご家庭もおだやかな新年を迎えられたことと思います。

さて、皆さまご存知の通り、１月８日から新型コロナウィルス感染症拡大による２回目の緊急事態宣言が発令されました。今回の緊急事態宣言は、幼稚園や学校等の教育機関や保育園等の保育機関は基本的には休校、休園はしないということでしたので、幼稚園も通常保育としています。現段階におきまして、くさばな幼稚園では引き続き、園児、保護者の皆さま、職員ともに罹患者がなく、また、例年のこの時期に大流行するインフルエンザの罹患者もいなく、欠席者がほとんどいない状況です。何事もなく通常保育ができることに嬉しく思っています。しかしながら、あきる野市や近隣の市町村では、日々罹患者が増え、近隣の保育施設からも日々、濃厚接触者の情報や、陽性者が出ている状況を考えますとまだまだ油断ができないということで、引き続き感染予防に努めているところです。３学期が無事に終えられるよう、引き続きご協力をお願いいたします。

《給食時の取り組み》

緊急事態宣言を受け、これまでは給食時にパーテーションを使用して食事をするように取り組んできましたが、飛沫感染等のリスクを少しでも減らすべく、最小限の会話を心がけています。しかし、食事をしながら友だちと会話を楽しむことが給食の楽しみの一つでもある中で、それを禁止してしまったら、お子さまたちにとって給食は、ただお腹を満たすだけの時間となってしまいます。そのため、少しでも会話を減らしながら食事の時間が楽しめるようにと職員で考え、現在、もり組とやま組では食事中に昔話の CD を掛け、それを聞きながら食べるようにしています。絵本や紙芝居と違い、頭の中でイメージを膨らませながら聞くということもでき、お子さまたちも楽しんで聞いているようです。暫くはこうした食事の時間が続くと考えられますが、お子さまたちが楽しく過ごせるよう今後も工夫をしていきたいと思っています。

《椅子を修理しました》

年長児が使用している木製の椅子が長年の使用により、所々ささくれてしまいました。そのため先日、小林建築さん（卒園生）にお願いし、ささくれた部分を削り、再塗装をしていただきました。座面、背もたれ、脚とすべてが木製だったため、メンテナンスを終えて戻ってくると新品同様になっていて、早速年長児が喜んで使用していました。実は、この椅子は、現在の園舎が完成した昭和６２(1987)年に購入したヨーロッパ製のもので、かれこれ 30 年以上使われています。そして、今回修理をしてくださった小林さんも幼稚園の時に使っていたということでした。歴代の卒園生が大切に使ってきたものが、今日まで受け継がれていることに幼稚園の歴史を感じずにはいられず、これからも大切に使っていきたいと思いました。

園長　影山 幸江

「子ども会について」

２月のおたよりでも少し触れましたが、２７日（土）は、子ども会です。今年度は保育日数が少なく、例年通りのカリキュラムでの保育が難しいところもありましたので、お子さまたちが負担にならないようにまた、文部科学省の新型コロナウィルス感染予防のガイドライン（歌を歌う際の距離など）に沿った教育活動を行ってきていますので、内容等も職員で精査し、練習に取り組んでいるところです。このような状況の中でも、お子さまたちが楽しみながら練習に参加できるように指導していきたいと思っています。

さて、保護者の皆さまには、２月のおたよりでお知らせしました通り、現段階では予定通りに開催の方向で準備を進めております。近隣の市町村によっては、やむを得ず発表会等を中止としている園もあると聞いていましたので、開催自体を危惧しましたが、現在、当園では罹患者や濃厚接触者の報告もないことから、開催を決定しました。しかし、開催にあたりましては、文部科学省からの通達に沿った感染予防（室内での活動に対する行動基準やマスクの着用及び身体的距離の確保等）を取らなければならず、特に身体的距離の確保という面と、お子さまたちの教育活動のガイドラインを遵守すると、会場となる２階のホールでは例年通りの開催が難しいのではないかという声があがりました。そのためホールのレイアウトを変更することや、別の会場を借りて行うことも検討しましたが、それに伴うお子さまたちの負担を考えると、やはり会場はホールという結論に達し、ホールで行うためにどうすれば良いかを職員間で検討を重ねてきました。検討の結果、お子さまの演技のスペースを十分に確保することにしました。そうなると必然的に参観スペースが狭くなってしまうこともちろん懸念されました。

そのため、まず、お子さまの成長をご覧になることを楽しみにしていた保護者の皆さまには、大変申し訳ありませんが、クラス毎の入れ替え制と、参観いただけるのは各家庭１名ということをお願いせざるを得なくなってしまいました。限られたスペースでかつ感染者を一人も出さずに終えることができるよう現段階では、このような形で考えていますが、更に良い方法がないか職員一同で模索しているところです。保護者の皆さまのご意見やご要望も参考にしていけたらと考えておりますので、何かありましたらお声掛けください。いずれにしても、無事に子ども会当日を迎えられるよう、引き続きご家庭におきましても感染予防に努めていただきますようお願い申し上げます。

園長　影山 幸江

私のおすすめの絵本

（この欄は教職員が交代で担当します）

おなかのなかに おにがいる

作：小沢孝子

絵：西村 達馬

出版社：ひさかたチャイルド

この絵本は、私が幼稚園の頃から家にあり、節分に限らず時々読んでいました。人のお腹の中にはいろいろな鬼がいてその鬼がいるから、怒りんぼだったり、泣き虫だったりするんだよ、と言う絵本です。今年の節分は124年ぶりに2月2日だそうです。ぜひお子様と読んでみてください。「みんなのお腹の中にはどんな鬼がいるかな？」考えてみるのも面白いですね！

尾崎　茜